

今週のことば「門」

《聖書》ヨハネによる福音書10:1-10

救いの道

日本には、古来より神道や仏教があり、多くの人々が救いの道として信じてきました。キリスト教が日本に伝えられた歴史を振り返りますと、宗教として入ってきただけでなく、ヨーロッパの文化と一緒に入ってきました。当時の支配者たちが、キリスト教を受け入れたのは、純粋に新しい宗教を受け入れたかったというよりも、一緒に入ってきた文化を受け入れたかったのです。

キリスト教の禁教令にしても、宗教そのものを禁止する事が目的ではなく、キリスト教を利用して入ってくる政治勢力の支配を押しやる事が目的であったと思われる。

救いの道には、これでないといけなというものはありません。ある人にとっては仏教が自然と受け入れられますし、ある人にとってはキリスト教が自然と受け入れられます。このように、特定の宗教だけが救いの道だとは言えません。

キリスト教の歴史の中で、自分の宗教だけが、唯一の救いの道だという事を主

張し、多くの人々を迫害してきました。

しかし、第2バチカン公会議において、こうした考えは間違いであった事を認め、他宗教との和解につとめるようになりました。

キリスト信者の多くは、たまたま触れた宗教がキリスト教であったという例が多いようです。現実の生活との結びつきで、各自が触れやすいもの、あるいは、よりよく自分の道を見つけやすいものを選びばよいのです。

困りの門

救いの道は個人的なものにとらえている人も多いですが、キリスト教では、個人の救いではなく、共同体に入る事が強調されています。洗礼はただ単に個人の罪をゆるしてもらっただけでなく、教会共同体に入る秘跡なのです。

この共同体へ入るための門がイエスなのです。洗礼によって聖霊の恵みを受けたいキリスト信者は、イエス・キリストの福音に答えるように求められます。自分さえよければいいという考えではなく、すべての人々が等しく神の恵みを受けられるように働かなければなりません。

復活節第4主日A年福音(瀧野正三郎)